

# WHILL MAGAZINE

2019  
FEB.-MAR.  
2・3



WHILL株式会社

〒230-0045 横浜市鶴見区末広町1-1-40 横浜市産学共同研究センター実験棟F区画  
WHILLコンタクトデスク TEL: 0120-062-416 (IP電話の方: 050-3085-9840)  
受付時間: 9:00~19:00 (平日)  
HP: <https://whill.jp>



# WHILL MAGAZINE

2019  
FEB.-MAR.  
2・3





## お客様インタビュー

MIU WATAI

VOLUME. 36

渡井心結さん

周りからの視線が  
変わったことで  
自信を持てるよう  
なりました。

現在中学2年生の渡井様は先天性の病気のため、

手動車椅子と杖を使用していました。

2018年3月にWHILL Model Cを購入、  
杖と併用されています。

病気とどのように向き合っているのか、  
ご本人とお母様が丁寧に語ってくださいました。

### H.C.R.で一目惚れ、購入を決めました。

小学生の時は、母の自転車での送迎と歩行器を使って学校へ通っていました。中学に上がる時、本当は仲良しの友達が行く地元の中学校に通いたかったのですが、建物が古くて階段しかなかったため、2駅先のエレベーターのある中学校に通うことになりました。朝は母に手動車椅子を押してもらって登校し、校内は杖で移動。帰りは、一人の時は車椅子を歩行器のように押しながら帰っていました。でも学校から駅まで徒歩10分ほどの距離に30分近くかかり、疲れて駅のベンチで眠り込んでしまうことも何度かありました。中学1年の夏に病院の先生と相談し、電動車椅子を探すために国際福祉機器展(H.C.R.)へ行きました。いろんな製品を見ましたが、WHILLに一目惚れし、補装具費支給制度を使っての購入を決めました。車椅子に乗っているときにジロジロ見られることが嫌だったので、WHILLは車椅子っぽくなくて、テーマパークのアトラクションにもありそうな見た目なので、今まで感じていた視線が変わってくれるのではないかと思いました。



### 友達のペースについていけませんでした。

以前、友達と初めて吉祥寺へ遊びに行きました。その時は杖を使って行ったのですが、途中で疲れてしまって友達のペースについていけなくなりました。「ここで待ってて」と言われ、ベンチで30分ぐらい一人で待ちぼうけ。友達も気を遣ってくれたのだと私は思いますが、とても淋しかったです。楽しいお出かけのはずが、疲れきった体と重い気持ちで帰宅しました。WHILLがある今では自由自在に動けるので、友達との外出も楽しめるようになりました。今度、鎌倉の校外学習にもWHILLで行きます。

### 私の病気の代わりに、 WHILLに注目してもらえます。

中学生は良くも悪くも、大人より正直な視線を向けてきます。以前の車椅子からWHILLに変えて、「私の身体に対する好奇の目」から「WHILLという乗り物への興味」に変わったと私は思います。

一般的な車椅子では「なぜ車椅子に乗っているの?」と病気のことを聞かれることが多かったです。隠しているつもりはないのですが、いちいち説明することを面倒くさく感じたり、いい気持ちにはなりませんでした。WHILLに乗っていると、みんなWHILLのかっこよさに注目しています。私の身体ではなくてWHILLに視線が集まっているんです。「かっこいい」とか「すごい、高いんでしょ?」と

よく言われます。「乗ってみたい」と言う子も多いので、よく学校で乗せてあげます。可愛い靴やおしゃれな文房具と同じように、WHILLは自慢することができます。人目を避けることなく、自信を持って外に出かけられるようになりました。

### 「本当はもっと行きたい場所があったんだ」と気づきました。

WHILLを使い始めてから、電車に乗って大きな本屋にふらっと出かけるようになりました。いままであまり行かなかつたんですよ。必ず行かなければならぬ場所ではないので、わざわざ母に連れて行ってもらうほどではなかったのです。「私、本当はもっと行きたい場所があったんだ」って、WHILLに乗ってから気づきました。

### 一人で海外留学にチャレンジしました。

以前家族でオーストラリアに行き、日本とはまた違った自由な雰囲気に興味を持ちました。明るく気軽に手を貸してくれるところや、いろいろな人種がいて、車椅子に乗っている私を特別視しないところが面白いと思い、2018年の夏休みにブリスベンに一人で2週間留学してみました。

ホームステイ先の方にWHILLの分解方法の動画を見せたら、すぐに覚えてくれて、自動車に積んでいろいろな場所に連れて行ってくれました。もっと英語を上手に喋れるようになって、今度は長期留学をしたいです。



オーストラリアの動物園にて



### お母様の声

さまざまなツールを使ってどんどん外に出していくって欲しいです

娘は今、思春期という時期でもあります。普通校に通っているのでなおさら「他の子ができるのに、自分はできない」と葛藤することも多いようです。学校という集団行動の場では気づきにくいかもしれませんが、大人になってみると「自分の力だけでできないこと」は誰しもあると気づきますよね。「できないことはできない」と割りきって考えて良いと思っています。

訓練して何でも自分一人でできるようになることが自立だとは思っていません。高い棚の上のものが取れなくて困ったときには、道具を使うとか、背の高い人に「届かないから取って」と言うとか、または「ここをこうしてもらったら自分でできる」と他の人に言うとか。それで、自分の思うような結果が得られれば良いのではと思います。

これからもWHILLのような便利なものや、他のツールを使っていろいろなことにチャレンジし、娘にはどんどん外に出していくって欲しいと思っています。今回のオーストラリアへの留学も、半ば背中を押すように行かせました。まだまだ日本では、障害に対して凝り固まった視線や偏見を感じることが多くあります。娘自身にも、いろいろな世界を自分の目で見て、さまざまな人がいることを知り、多様な価値観を学んでいってもらいたいです。



## お客さまインタビュー

YUI AWAI

VOLUME.37

栗井優衣さん

# どんなTPOにも マッチする、 それがWHILLに 乗りたい理由でした。

25歳の栗井様は高校生までは杖と手動車椅子を使って生活していました。上京して大学に入学する18歳のときに簡易型電動車椅子を購入。そして、2018年の冬に補装具費支給制度を使ってWHILL Model Cに乗り換えました。



## 手動車椅子を一生懸命漕ぐことが偉いことだと思っていました。

高校生のときに、大学進学を目指しましたが、志望校に行くためには一人暮らしをする必要がありました。そこで、障害のある学生の高等教育へのアクセスを支援するプログラムに参加しました。プログラムに参加するにあたって、初めて家族や友人と一緒にではなく自分の力で東京の街を移動することになりました。これは、香川から出てきた私には大きなチャレンジの一つでした。



そのため、上京する前の3週間、毎日家の周りを2~3km、手動車椅子を漕ぐ練習をしていました。しかし、もともと握力の弱い私はスムーズに移動できず、集団行動に遅れを取っていきます。過密スケジュールのプログラムの中で、車椅子を漕ぐことに体力が消耗されていきます。そんな中、「それで本当にいいの?」と声をかけてくれたプログラムの先生がいました。歩いたり手動車椅子を漕ぐといったことは、私にとってとても困難なこと。それを、無理にでもやろうと努力することが必ずしも偉いわけではない、という新しい考え方との出会いでした。その時まで私は、頑張って車椅子を漕ぐことは褒められることだと思っていた。実際、周囲の人たちにも「頑張って車椅子を漕いでいて偉いね」と声をかけられることが多かったです。このことがきっかけとなってさまざまな事を考えさせられました。

「手動車椅子を漕ぐことに使っている体力と時間を、他のことに使ったらもっとできることが増えるのではないか?」

「ツールを使って、一番頑張りたいことに力を注がなくていいのか?」

「私が本当にやりたいことは何だろう?」

こうして私は東京の大学に進学すると同時に、電動車椅子を入手することを決めたのです。

## WHILLにどうしても乗りたかった

初めて手に入れた電動車椅子は簡易型でしたが、2台目はWHILLがいいと決めていました。大学を卒業し就職した

タイミングで念願が叶いました。

WHILLの好きなところの一つは、どんなTPOにでもマッチするところです。結婚式に出席するときのドレス、成人式のときの振袖、就職面接のときのスーツなど、どんな服にも似合います。

他社の車椅子もスポーティーだったりカラフルだったり、かっこいい製品や、おしゃれな製品はたくさん出てきています。しかし、想像してほしいのは、私たちにとって車椅子はいつどんなときも乗っている物であるということです。

スポーティーな車椅子はカジュアルな格好には似合いますが、スーツやドレスに似合うでしょうか? カラフルな車椅子はその物自体は素敵ですが、かっちりとした面接やプレゼン、葬祭のときなどに、場の雰囲気から浮いてしまわないでしょうか?

私は「TPOに合わせた立ち居振る舞いをしたい」という気持ちを邪魔しない、ニュートラルなデザインが欲しかったのです。

## デザインが良いか悪いかという話ではない

TPOに合わないという辛さは幼い頃から抱えていました。例えば、靴です。幼い頃は足に装具をつけていたので、装具用の靴を履いていました。地味な色しか選択肢がなく、年齢にそぐわないデザインで、ずっとネガティブな気持ちで靴を履いていました。同級生が履いている流行のキャラクターの靴を見て、疎外感を味わうこともありました。

特にピアノの発表会のときの事を覚えています。綺麗なドレスを着て、髪の毛を可愛くセットしても、装具用の靴だけは運動靴のようなデザインのままだったのです。

デザインが良いか悪いかという話ではないんです。自分にだけ選択肢が限られていたり、全身のコーディネートがちぐはぐになったりすることがとても嫌でした。またそれを「障害があるから仕方ないよね」と、自分で思うことも他人から思われるることも私は許せませんでした。

## 目指して欲しいのは"モノ"としてのかっこよさ

福祉用品になるとその世界の基準だけでデザインが決められてしまうと感じています。車椅子といえばあの形しかない。色にはバリエーションがあったとしても、形に大きな変化があるわけではない。車椅子は車椅子として作られていて、車椅子としておしゃれなだけ。それで自分を表現するにはあまりにも狭いと感じます。

目指して欲しいのは"モノ"としてのかっこよさです。ファッション誌に載っていてもおかしくないと思えるような車椅子が欲しかったんです。

車椅子業界に限らず福祉用具を作る人たちが、そういった視点をもっと持ってくれると良いなと思います。

人は「選び取る」というところで「自分を表現する」ことができます。それを福祉用具においてもできるようになると、「自分らしくない」という辛さから脱することができるのだと思います。



## 補装具費支給制度について

THE GRANT SYSTEM OF ASSISTIVE DEVICE EXPENSES

### WHILLを、制度を利用して購入したい

そんなお声がお客様からよく寄せられます。実際に多くのお客様が補装具費支給制度を使ってWHILLを購入されています。一方で、窓口で却下されてしまったり、生活上の困難をうまく伝えられずに支給が受けられなかったというケースも耳にします。今回は同制度を利用してModel Cを購入されたY様に、申請の際の工夫を伺いました。

#### 補装具費支給制度を使ってのWHILLの購入には 生活上の困難を伝える工夫が必要です。

東京都 Y様

Y様の障害者手帳に記載されているのは、「下肢障害」のみ。車椅子を自走して生活できるほどの筋力はありませんが、「鍛えて強化することが可能である」といった理由で「上肢障害」は認められず、簡易型電動車椅子の支給自体、難しいと言われたこともあったそうです。WHILLを購入するために普通型電動車椅子の申請も行いましたが、支給を認めないと判定された過去もありました。しかし、再度材料を揃えて申請することによって支給に至りました。



#### POINT 1 基本的に

補装具は「身体機能を補完または代替する用具」であり、「あれば便利なもの」という条件だけでは認められないものです。その用具、機能がなければ生活、就労、就学が困難であるかどうか、その用具を使わないことで痛みや褥瘡、変形が発生するなど医学的な問題が生じるかなどの視点も踏まえて必要性を訴える必要があります。

#### POINT 2 上肢障害がないことに関して

上肢障害が認定されていないため電動車椅子の支給を諦める、という話はよく聞きますが、上肢障害がなくとも坂道や悪路などが生活圏にあって手動車椅子では日常生活を送ることが難しい場合、支給が認められています。私も下肢障害のみということで窓口で拒否されましたが、握力をその場で測定し、現在の握力では車椅子を自走して生活することが困難だと理解してもらいました。

#### POINT 3 判定に自分のことをよく知る 第三者を連れて行く

判定の多くは数時間で行われることから、病名やその場での状態の確認だけでは生活上の困難が伝わらないのではないかと思い、普段の生活を長期的に見てくれているケアマネージャー

の方に同行をお願いし、自分の状況を第三者の目線から証言してもらいました。また、「簡易型電動車椅子の布張りの座面ではなく不安定で疲れやすいため、普通型電動車椅子の方が身体に適している」という旨を含めた主治医の意見書も用意しました。

#### POINT 4 環境要因を細かく説明し、実演する

買い物の、通勤、通院などの日常的な生活エリアにも、簡易型電動車椅子では登りにくい段差や、危険な急坂がいくつもあります。そういったポイントを、地図上で具体的に場所を示して説明し、毎日転倒の危険を感じながら簡易型電動車椅子に乗っていることを伝えました。また、実地での検証が必要と判断されたため、家の周りの段差や坂と一緒に見に行き、簡易型電動車椅子では走行が難しく困っているということを実演しながら説明しました。

#### POINT 5 電動車椅子があることによって、 「自立」できることを伝える

この制度の目的は「自立」です。私の場合、「自立」という要素のうち自分に当てはまるのは「就労」でした。そのため、私は「会社でフルタイムで働く」というゴールを伝え、WHILLがなければそれが難しくなる現実を具体的に伝えました。例えば、通勤経路に段差があるから段差乗り越え機能が必要である、フルタイム

で働くには体力を温存しなければならないので安定感のある普通型電動車椅子が必要、などです。

また、通勤途中でバッテリー残量がなくなってしまう可能性についても説明し、予備バッテリーを支給してもらうことができました。自宅の周りだけでなく、職場の周囲にも判定員を連れて行き、環境面のバリアを伝えました。

#### POINT 6 デザインは判定には関係ない

「なぜ他の車椅子ではなくWHILLに乗りたいのか?」という判定員の問い合わせに対し、「デザインがいいから」という答えはあまり好ましくありません。判定員は私たちの身体にとって、WHILLが「身体機能を補完または代替する用具」に該当するかを重視します。デザインではなく機能面に焦点を当てて話をする場なのです。

※あくまで体験談であり、自治体、個別の身体状況により判定結果は異なります。

### 制度について

#### 電動車椅子における 補装具費支給制度とは

身体障害者、身体障害児および難病患者等に対し、自立と社会参加の促進を図ることを目的として、電動車椅子の購入にかかる費用の一部または全部を市町村が支給する制度です。支給決定に至るまでは身体障害者更生相談所の判定があり、身体状況、年齢、職業、学校教育、生活環境等の諸条件を考慮し、是非を判断します。\*

※上記は2019年2月時点の情報です。  
＊以下の資料を参考に作成いたしました。  
厚生労働省 平成30年3月23日発表  
『電動車椅子に係る補装具費の支給について』

#### WHILLの支給について

WHILL Model CおよびModel Aは、給付対象である「普通型電動車椅子」の規格を満たしており、支給された実績がございます。補装具費支給制度を利用して購入する場合は、以下の2つの必要性が認められる必要があります。

##### 1.まず、電動車椅子が必要かどうか？

##### 2.さらに、「普通型」電動車椅子が必要かどうか？

(「簡易型」電動車椅子での支給判定ではWHILLを制度で購入できません。)

詳しくはWebをご覧ください。

WHILL 補装具

検索

### NEWS

#### WHILLをご利用中のお客様を対象に、 ユーザー登録を開始！

ご登録いただくと、新製品やイベントの情報、お得な情報などを受け取ることができます。登録完了でWHILLオンラインストアで使える500円クーポン、アンケートに回答するとさらに500円クーポンをプレゼントいたします。



こちらのQRコード、または  
ホームページ上部の「サポート」  
からご登録いただけます。